

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス成東教室		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 15日 ～ 2025年 3月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	26
○従業者評価実施期間	2025年 2月 15日 ～ 2025年 3月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	研修の充実	虐待防止や感染症、運動などの研修を実施し、職員の資質向上に力を入れている。	- 定期的な外部研修の導入や、最新の支援技術や知識を学べる機会を増やすことで、職員のスキル向上を図る。 - 研修内容を実践に結びつけるため、可能な限り研修後のフィードバックや共有会を設ける。
2	共通理解と協力的な支援	支援計画の作成時に、職員が共通理解のもとで子どもの特性に応じた支援方法を話し合い、計画に沿った支援を行っている。	- 支援計画作成時に、保護者や他の専門職とも積極的に意見交換を行い、支援計画の質を向上させる。 - 定期的に職員間で計画の見直しや振り返りを行い、支援方法の改善点を共有する。
3	柔軟な支援プログラムとチームワーク	活動プログラムが毎月変更され、職員が交代でリーダー役を担い、個別活動と集団活動を適切に組み合わせて支援を行っている。	- 活動プログラムのバリエーションを増やし、子どもの反応に応じて柔軟に調整できるようにする。 - 当日に運動について話し合い、職員間の連携を強化し、支援の質を向上させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設のスペース不足	現在の教室の広さが利用定員に対して狭く、子どもたちが快適に過ごすための空間が不足している可能性がある。これにより、活動の効率や子どもたちの自由な動きが制限され、支援の質に影響を与える恐れがある。	- 教室のウッドデッキの活用や空間の最適化で効率的に利用。 - 利用定員の調整で安全・快適な環境を確保。
2	送迎時間帯の職員配置の難しさ	送迎の時間が重なると職員配置が難しくなることがあり、特に忙しい時間帯に十分な職員のサポートが難しくなる場合がある。これにより、子どもへの支援が手薄になる可能性があるため、職員配置や時間管理の見直しが必要である。	- シフト調整で送迎時間帯の職員配置を最適化。 - 他教室の方(ヘルプ)や外部(タイミーなど)を取り入れて負担軽減。
3	施設のバリアフリー化の不備	施設内は現在バリアフリー化が完全には進んでいない部分があり、特に玄関の段差が残っている点や、設備が障害の特性に応じた配慮が不十分な部分が見られる。これにより、特定の障害を持つ子どもたちが施設を利用しづらくなる可能性があるため、改善が求められる。	- 器具などを用いて段差解消や設備の改善でバリアフリー化を進行。 - 個別ニーズに対応した配慮を施設内で実施。